

## 令和4年度 現職研修助成事業研修概要 周南市立秋月中学校

### 1 研修主題

主体的に学習に取り組む態度の育成と評価の研修  
～英語科授業力向上をめざして～

### 2 設定の意図

平成29年改定学習指導要領において、全ての教科等の目標及び内容を「知識・及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成をめざす資質・能力の三つの柱で再整理され、観点別学習状況の評価についても、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」に整理された。新学習指導要領完全実施1年目の令和3年度、本校の英語科では、「思考力・判断力・表現力」についての育成と評価について研修を深め、目的・場面・状況のある言語活動や定期テストの問題作成、ルーブリックを生徒と共有したパフォーマンス評価を行ってきた。しかし、「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価については、研修の機会も少なく、各教員が曖昧な理解のまま実践を進めてきた。今年度は理論の裏付けのもと実践に取り組むことができるよう研修を深めたいと考え、主題を設定した。

### 3 研修内容

- (1) 生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成をめざした英語科授業の単元計画の作成と実践・評価・振り返り
- (2) 講師を招聘した研修会の開催

### 4 実践報告

- (1) 生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成をめざした英語科授業の単元計画の作成と実践・評価・振り返り

#### ① 単元計画の作成

単元計画を作成するにあたっては、単元のはじめに単元ゴールのタスクを示し生徒が見通しをもって学習に臨むことができるようにし、各授業で単元ゴールに近づくためのインプット、アウトプットの場を多く設定するよう試みた。また、単元ゴールのタスクを生徒ができるだけ必然性を感じられる課題となるよう留意して作成した。【資料1】

#### ② 授業実践

授業の実践について、使用教科書 New Horizon 2 Unit 4 Homestay in the United States での2年生の実践例をここに挙げる。【資料2】ホームステイの体験を読むことを通して、その国、その家庭でのマナーやルールがあることに気付かせ、日本や自分の家でのマナーやルールについて他者にアドバイスすることができることを目標とする。目標に到達するためには、他の国の生活習慣と自分の国や学校、家での生活習慣を比べながら、本当に相手に必要な情報を伝える必要があると考えた。そこで、「フィリピンにいるALTのいとこ Kenneth が生徒の家にホームステイし、秋月中学校に通いたいと言っている。家庭や学校生活についてフィリピンの生活習慣と比べながらアドバイスしてほしい。」という主旨の話をもとにALTからしてもらい、単元タスクを示した。また、フィリピンの学校や家庭生活、日本と異なる文化についても紹介してもらった。

各授業に際しては、ワークシートに、話したことを振り返って「言いたかったけれど言えなかったこと」をメモしておく欄や、話したことを書く欄を設けたり、練習の過程を録画したりし、学習の記録を蓄積させ、自らの学習を振り返り、課題を見つけられるよう工夫した。また、生徒が自らの学習を振り返ったり、戦略をたてたりできるように、CAN-DO リストを単元に落とし込んだもの、単元タスク、ルーブリック、ふり返しシートを一枚にまとめたものを Reflection シートとして配布し活用させた。【資料3】振り返りは、単元のはじめ、中間、終末に行うものと、日々の授業後に行う2種類の欄を設けた。単元のゴールに向けて、自分のパフォーマンスの向上をめざしてその都度、自己評価し、何ができるようになったか、今後どのようなこと

ができるようになればよいかを確認することで、主体的に学習に取り組む態度の育成を図った。任意で提出する Active notebook には、単元ゴールに向けて自分なりに話すことを書いては訂正したり付け加えたりして、スキルを高めようとする姿が見られた。【資料4】

### ③ 評価

評価に関しては、ALT とのパフォーマンステストや定期テストにおいて、ルーブリックを活用し生徒に返すことで、生徒自身が自らのパフォーマンスを振り返ることができるようにした。【資料5】

ALT とのパフォーマンステストでは、主体的に学習に取り組む態度の評価規準を次のように設定した。

ア 相手に質問したり、確認したり、よりよく伝わるように工夫したりして、話している。  
イ 教師や周囲の助言なども参考にしながら、自ら課題を具体的に修正し、その成果がパフォーマンスに表れている。

アの「相手に質問したり、確認したり」では、事前にフィリピンについて ALT からあった話を自分が正しく理解しているかどうかを確認したり、相手に質問したりしながら「やり取り」をしているかという点に焦点を当てる。「よりよく伝わるように工夫する」とは、「相手に伝わるようにはっきりと、聞こえる声で、身振りを交え、アイコンタクトをとりながら」話すことを指し、これまで一貫して「コミュニケーションスキル」として指導している点である。また、授業において、ペアの相手を ALT と見立てて行った言語活動の際、中間指導として、教師が「ディスコースマーカーの使用」について指導している。イについては、この点に焦点を当て評価した。具体的に単元終末のパフォーマンステストにおける生徒の発話を紹介する。ミスもそのまま、生徒が発話したとおりに掲載することとする。（ ）内は ALT。

**生徒 A** Hello. I will tell you about differences. First, I will tell you about differences between Japanese school and the Filipino school. In the Philippines, you have to bring lunch to school, right? (Yes) But in Japan we don't have to do that because we have school lunch every day. Eating school lunch with my classmates is so fun. But we must be quiet when we eat because of Corona virus. (mhmm) Second, I will tell you about my house. When your cousin do a homestay in my house, he has to go to bed at 10:30. Do you have any questions? (What time does he have to wake up?) I always get up at 6:30 so he has to get up at 6:30, too. Third, I will tell you about between the Filipino culture and Japanese culture. In the Philippines, you can use hands when you eat rice but in Japan you can't use hands when you eat rice. (hm) So we use chopsticks. But maybe it is difficult to use chopsticks for your cousin. So but don't worry. You can use spoon, too. That's all. Do you have any questions? (If my cousin uses hands for eating in your house, will you get angry?) No, no no. (OK, I see.)

生徒 A は下線部のように、「相手に質問したり、確認したり」して話している。また、外国にホームステイする不安を気遣った “don't worry” という言葉がけをするなど、相手意識をもって話している。さらに、アイコンタクトなどのコミュニケーションスキルを使って話している。波線のようにディスコースマーカーの使用も見られることから、「主体的に取り組む態度」についての評価を「5点満点中5点」とした。

**生徒 B** Hello. I will tell you the difference between the Philippines and Japan. In the Philippine JHS, you have snack time, but in Japanese JHS, no snack time.

Don't bring snack. I will talk about Japanese culture. In the Philippine's culture, Christmas season starts in September, but in Japanese culture, Christmas day is December 25<sup>th</sup>. Philippine's Christmas is long, but Japanese Christmas is not long. The difference is interesting. In my family, you have to wash the bathtub. Please tell him that. Thank you. (What do you do on Christmas?) Eat cake. (What cake?) Chocolate cake.

生徒 B はフィリピンと日本の学校の違い、文化の違い、自分の家のルールを話について、まとまりのある英語を話している。また、下線部では、自分の感想も付け加えている。波線のように、ディスコースマーカ―は同じ語ではあるが3回見られる。また、アイコンタクトなどのコミュニケーションスキルを使って話している。しかし、質問したり確認したりすることなく、一方的に話しており、相手意識にやや欠ける。そこで、「主体的に学習に取り組む態度」については「5点満点中4点」とした。

**生徒 C** Hello. Philippines go to school time is early but we go to school by 8:10 in Japan. You don't bring lunch because we can eat school lunch. But "obento no hi", only cooking and bring your lunch. When you go outside, say my father. You have to tell my family.

生徒 C は、フィリピンと日本の学校の違い、自分の家のルールについて話している。ディスコースマーカ―の使用も多少見られる。しかし、質問したり確認したりすることなく、一方的に話しており、コミュニケーションスキルを使って話すことにも改善すべき点が見られる。また、太下線部のように、“obento no hi” 「お弁当の日」と日本語をそのまま使っているにもかかわらず、相手が理解できているかの確認もなく、相手意識が十分にもてていない。そこで、「主体的に学習に取り組む態度」について「5点満点中2.5点」とした。

#### ④ 実践のふり返り

単元タスクを単元のはじめに示すことで、単元の終末に何ができるようになっていけばよいのか見通しをもって学習を進めることはできたようである。また、各授業で、聞いたり読んだりしてホームステイや海外の文化・生活習慣についてインプットし、話したり書いたりして自分のアイデアをアウトプットする機会を多くもたせることで、単元ゴールに向かってスキルを磨き、パフォーマンステストに臨むことができた生徒が多かった。しかし、取組には差があり、苦手な生徒のサポートがもっとできたのではないかと課題も残る。授業での見取りや、Reflection シートのより効果的な活用で、そういった生徒へのサポートを強化していく必要性を感じた。特に先にあげた生徒 C の“obento no hi” (お弁当の日) のような事例を中間指導で取り上げ、全体で考える場を設け、生徒が自ら課題を具体的に修正し、その成果がパフォーマンスに表れるようにしていきたい。

#### (2) 講師を招聘した研修会の開催

1月7日、広島大学松浦伸和教授による「主体的に学習に取り組む態度の育成と評価」と題する講演をしていただいた。開催においては、周南市中学校研修会英語部会、周南市小学校英語科専科、山口県英語教育推進教員(中学校)の先生方にも参加を促し、できるだけ多くの先生方と共有できるよう努めた。

講演では、①「主体的に学習に取り組む態度」の育成はなぜ必要なのか、② 英語科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象 ③ 具体的な評価方法 ④「主体的に学習に取り

取り組む態度」の育成方法、について学んだ。詳しくは【資料6】を参照されたい。

① 「主体的に学習に取り組む態度の育成」はなぜ必要なのか。

社会は加速度的に変化している。社会が変われば、求められる力も変わる。そこでは、常に追い求める姿勢、つまり「主体的に学習に取り組む態度」が必要である。

② 英語科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象

英語科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象は、「粘り強くコミュニケーションを図ろうとしている態度」および、「コミュニケーションを図れるための自らの学習調整」である。2つとも「コミュニケーション活動」つまり、「思考力・判断力・表現力」を伴う活動でしか評価できない。

③ 具体的な評価方法

「粘り強い取組」では、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを理解したりしようとする態度、つまり「コミュニケーションへの取組」、ストラテジーなどを用いてコミュニケーションを継続させようとする姿（語彙がわからなくても推測して読み続けている、相手の理解に配慮しながら話しているなど）、つまり「コミュニケーションの継続」の2つについて評価する。

「自らの学習の調整」では、「自己調整にかかる活動をおこなっているか」で評価する。

「自己調整のプロセス」には、ア「予見の段階」イ「遂行・コントロールの段階」ウ「自己省察の段階」がある。ウ「自己省察の段階」での「自己評価」の場面はよく見られるが、「予見の段階」「遂行・コントロールの段階」でも指導・評価が可能である。評価する場合は、ある部分に焦点を当て、評価規準を設けて行う。

④ 「主体的に学習に取り組む態度の育成」の方法

「予見の段階」では、「目的・相手を理解する」「内容の構想を練る」など、「自己省察の段階」では、「読み返し修正する」「ペアで作文の添削をする」「目標に照らした振り返りをする」などの指導が考えられる。生徒の学習が「深い学び」へと向かうためには、例えば、「書き方」を指導した後、実際に書かせ、「やり方シート」を作成させるなどの手順が考えられる。まずは指導し、できるようになってから評価する、「指導と評価の一体化」はここでも求められる。「遂行・コントロールの段階」では、「作文や会話などへの集中」「時間管理」などの指導が考えられるが、これは「粘り強い取組」の対象になる。

## 5 成果と課題

今年度、本校2年生のUnit 3からUnit 7における単元計画を英語科教員が協同で作成し、見直しをもって学習に臨めるよう、単元ゴールのタスク・ループリックを単元のはじめに生徒と共有してきた。ゴールが明確であることから、生徒が主体的に学習に取り組みやすく、態度の向上を実感している。教師も単元の終わりに生徒に到達してほしい姿のイメージを具体的にもちながら指導でき、指導と評価の一体化が実現していると言えよう。また、11月には専門家の講演が実現し、「主体的に学習に取り組む態度の育成と評価」について理論的に理解することができた。

しかし、理論を実践に結びつけることには、まだ課題が残る。自己調整のプロセスの各段階で、どのような指導と評価が行われれば効果的か、実践を通してさらに検証していく必要がある。また、振り返りシートの記述を見ると、本時の振り返りに留まる記述が多く見られる。生徒の学習が常に単元ゴールを意識したものになり、振り返りにそれが表れるよう、授業改善を進める必要もあろう。

「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価を無理なく適切に行うために、本年度の研究をもとに、どの単元でどの領域に重きを置き何を指導するかがわかり、中学3年間のつながりを意識した年間指導計画の作成を今後の課題としたい。